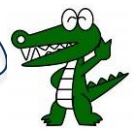


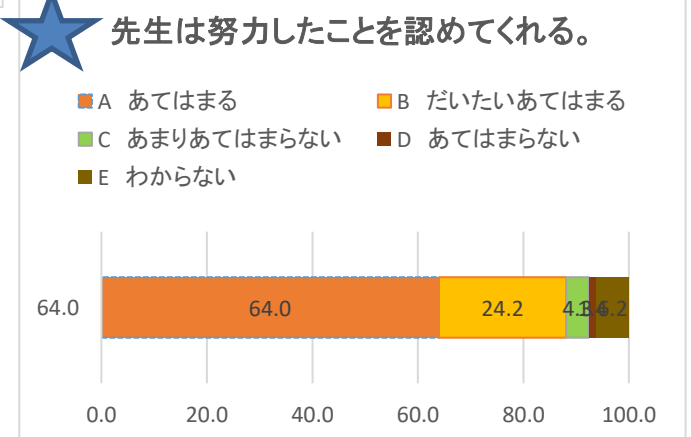
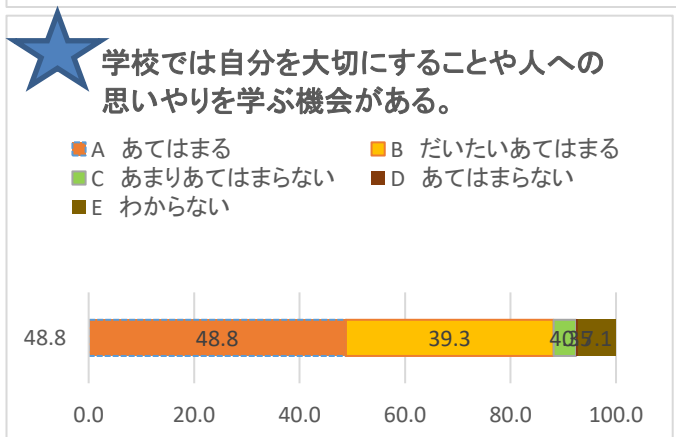
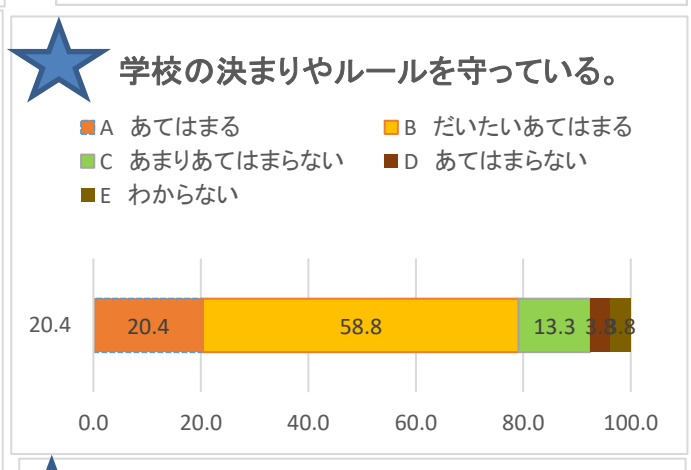
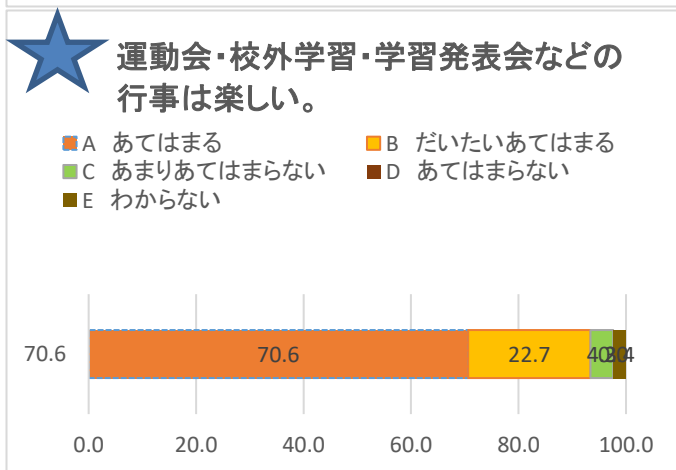
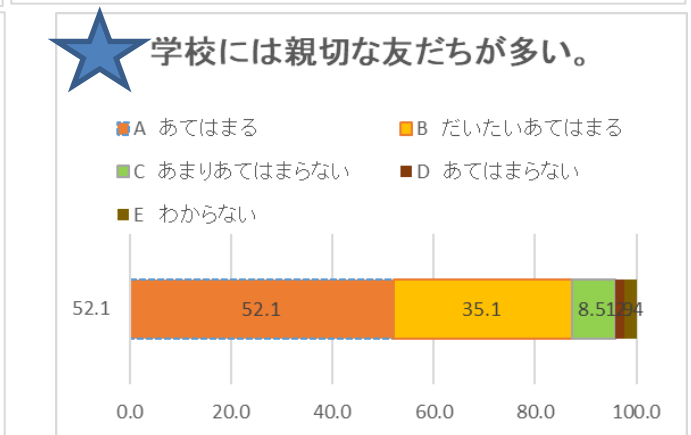
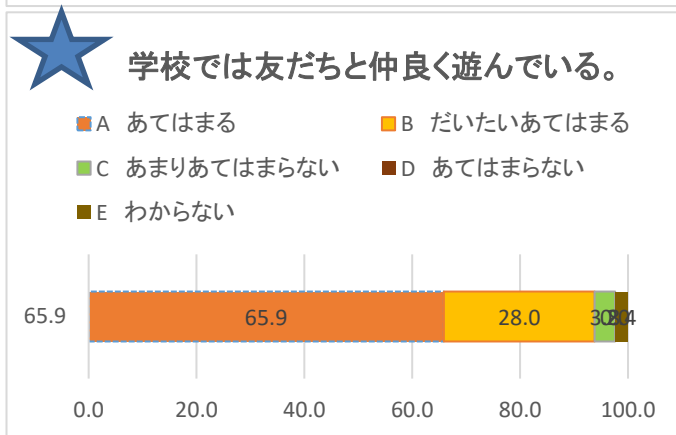
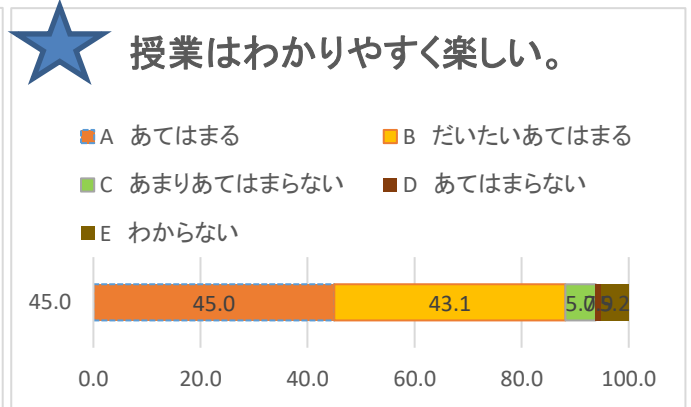
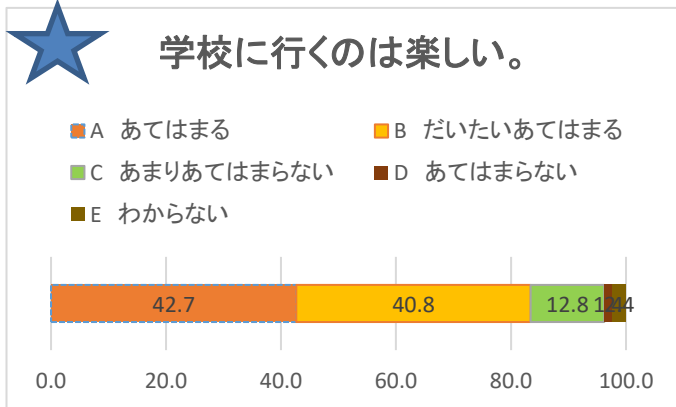


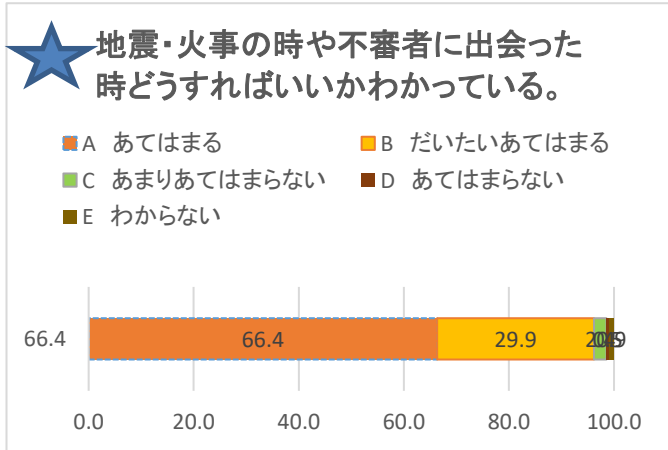
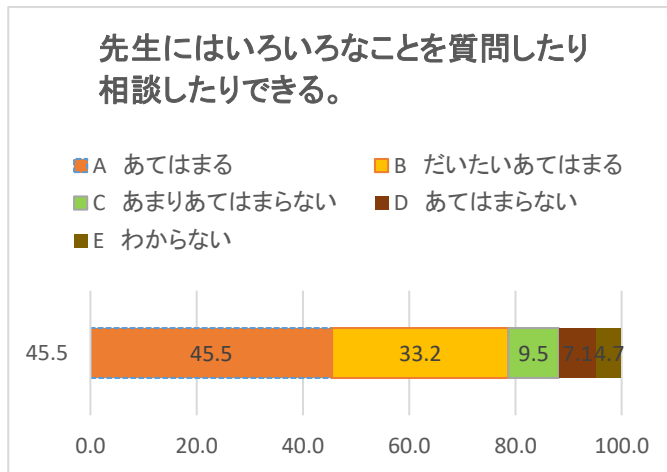
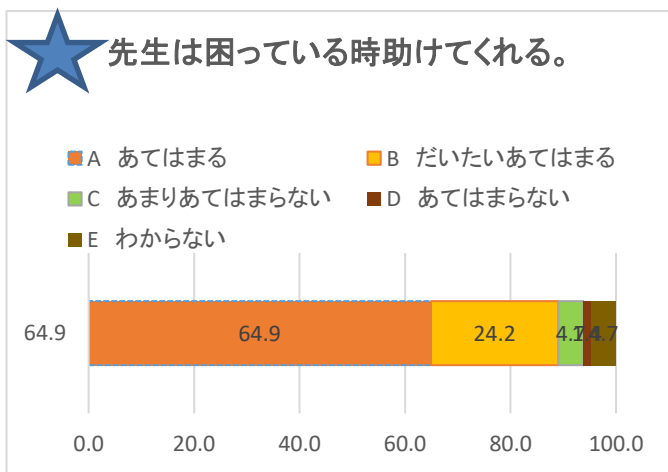
新田南小学校だより



令和8年(2026年)3月19日(木)発行

学校アンケート 高学年(4~6年生)・・・





<考察>★は肯定的回答が80%以上の項目に付けました。

○中でも「あてはまる」が多くついた項目として、『友だちと仲良く遊んでいる』『行事は楽しい』『先生は努力したことを認めてくれる』『先生は困ったときに助けてくれる』『地震、火事、不審者に出会ったときどうすればいいかわかっている』が上げられます。

低学年の結果同様、目指す子ども像の“しんせつで 思いやりのある子”については、概ね達成できていると言えます。また、「努力を認めてくれる」が低学年に比べ、「あてはまる」を付けた子どもが17%もアップしています。先生たちの励みになるとともに、高学年になり心も成長する中で、先生に認められたい、自分をしっかり見てほしいという気持ちが強くなっているのではないかと思います。

○★マークでも、「だいたいあてはまる」が「あてはまる」を大きく上回っている項目があります。『きまりやルールを守る』です。この数値から概ね守っていると言えますが、細かく見ていくとこのことは守ることができていないという子どもたちの心の動きが見て取れます。否定的回答も17%あることから、ここはきまりを必ず守らせる指導より、子どもたちの良識に訴える指導と言いますか、難しいのですが先生の見えていないところでも、自分で律する行動につながる何かが必要だと思っています。

○一方★マークが付かなかった項目『先生にはいろいろなことを質問したり相談したりできる』では真摯に課題として受け止めなければいけません。

高学年の成長期にある子どもの心は複雑で、教師が話したことについて様々な捉え方をします。このことについては、近道はなく、子どもたちとしっかり向き合い、対話を繰り返すほかないと思っています。このことについては学校側としてもしっかり受け止め、次年度に生かしていきます。

最後に。

「あてはまる」「だいたいあてはまる」を付けられなかった子どもたちに伝えたいです。「うまくいかないこと＝だめなこと」ではないことを。うまくいかなければ、大概のことは何度チャレンジしても大丈夫なこと。それが『学校』というところであること。そのチャレンジが大切であること。私も含め、大人が「失敗を許さない空間」を作らないこと。言うは易しです。自分の首を絞める話ですが、学校がこのような場所に少しでも近づこう、やり直しがきく場所になるよう、頑張りたいと思っています。